

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立三田小学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】
---------------	--

校長名 杉山 仁

学校教育目標	学校経営の方針
人権 安心・安全 「自己肯定感」を育む教育の推進	「互いに認め合い、安心して生活できる学校」

今年度の重点目標	
○学びが輝く学校 個別最適な学びと協働的な学びにより、「生きる力」と「確かな学力」を育む。多様な人々と協働し、児童の「活躍の場」を広げる。 ○人権を尊ぶ学校 児童が自分のよさや可能性を認識し、多様性を認め合う。「特別の教科道徳」を要とし、未来を担う一人として自分にできることを考える児童を育てる。 ○安心・安全な学校「安全教育」を通して児童の「危機回避力」を育む。心理的安全性を構築する。環境整備や安全確保を行い、危機管理意識を高める。	

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学ぶ力や態度の育成【学力向上】	1	授業改善、校内研究(算数科)の充実	【成果】 算数科において「わかる・できる」を実感させるため、以下の5つの視点から手立てを講じ、基礎学力の定着を図った。 ・学習の流れをパターン化し、見通しを持てる授業を展開した。 ・視覚的な情報を整理し、思考を助ける環境を整えた。 ・一人ひとりの習熟度や興味に応じた支援を行った。 既習事項の反復練習：学習内容の定着を目指し、繰り返し学習を徹底した。 ・デジタル教材等を活用し、視覚的・直感的な理解を促進した。 【課題】 実践を通して明らかになった以下の点を、今後の改善事項として取り組む。 ・解き方や考え方を共有し、学びを深めるための「交流の時間」を十分に確保すること。 ・板書の工夫をさらに進め、児童が要点を整理して書き写せるような具体的なノート指導の手立てを検討すること。 ・「ドリルパーク」等の学習アプリを、授業だけでなく家庭学習(宿題)でもより効果的に運用し、自学自習の習慣化を図ること。	<「わかる・できる」の実感> 全教科を通じ、児童の輝く笑顔を引き出す魅力ある授業を追求する。 <指導と評価の一体化> 評価に基づき、資質・能力を育むための最適な支援・活動へと改善を図る。 <ICT活用の高度化> 各教科の特性に応じた効果的な活用場面や手法を継続して研究する。 <家庭学習のデジタル化> 紙の宿題を精査し、ドリルパーク等の活用により学習効率を高める。
互いの良さを認め合え、人権尊重を重視した心の育成【人権】	1・2・3	「特別の教科道徳」の推進 命の日 人権旬間	1. 全校一斉道徳 道徳教育推進教諭を中心に、学級の枠を超えた授業を実践した。 【成果】 他学級・他学年との交流により考えの幅が広がり、多様な価値観を認め合う場となった。 【課題】 交流の少ない異学年同士でも、より活発に意見を引き出せるような工夫が必要である。 2. 「命の日」の取組 全校放送や、学年の発達段階に応じた「命」を大切にする指導を行った。 【成果】 多角的な視点から「命」の尊さについて深く考える機会となった。 【課題】 概念的な理解に留めず、日常の行動を振り返り「命を大切にするとはどう動くことか」を自分事として捉えさせる。 3. 人権旬間の取組 講話や啓発活動を通じ、いじめや暴力を許さない意識の再確認を行った。 【成果】 自他を大切に、互いの良さを認め合う心を育むことができた。 【課題】 旬間などの期間限定の取組に終わらせず、年間を通じて人権意識を高める活動を継続する。	1. 道徳教育の推進 <全校道徳の継続> 道徳教育推進教諭を中心に計画的な実践を継続し、児童の豊かな心を育てていく。 <実践力の育成> 教材研究と授業改善を重ね、児童が自らの考えを持ち、日常生活で生かせる「道徳的実践力」を養う。 2. 命を大切にする教育 <自他への尊重> 年間を通じて、自分と他者の命を共に大切にする心情を育てていく。 安全意識の定着：「自分の命は自分で守る」という主体的な意識の定着を図る。 3. 人権意識の向上と実践 <教職員の姿勢> 自身の言動を常に見直し、一人ひとりの人権を尊重した丁寧な指導・支援に努める。 <主体的な活動の充実> 人権旬間等の取組を計画的に実施するとともに、児童自身が主体的に動ける活動を充実させる。 <日常的な研鑽> 各種研修を通して教職員の人権感覚を磨き、日々の授業や児童との関わりに反映させる。

<p>健康安全教育的推進【安心・安全】</p>	<p>1・3</p>	<p>避難訓練、引き渡し訓練、不審者対応訓練、登下校指導、交通安全教室</p>	<p>1. 登下校の安全指導 地域の「見守り隊」と連携し、登下校時の安全確保に努めた。 【成果】 ・地域・保護者・学校が一体となり、全児童を見守る体制を構築できた。 【課題】 ・地域への依存度が偏り、家庭との連携不足が指摘されている。交通事故が増加傾向にあるため、児童一人ひとりが危険を察知し、正しく状況判断できる力の育成が急務である。 2. 防災訓練の実施 【成果】 ・教職員、児童共に高い緊張感を持って訓練に臨めた。特に休み時間の避難訓練を実施したことで、主体的な判断の重要性を再認識する機会となった。 【課題】 ・火災や地震など、刻々と変わる状況に応じて、自ら考えて行動できる「主体的な判断力」を養うための、より実践的な訓練が必要である。</p>	<p><家庭・地域と連携した安全確保> 引き続き「見守り隊」の協力を仰ぐとともに、各家庭との連携を強化する。学校・家庭・地域が一体となつて、児童が安全に登下校できるよう指導を徹底する。 <主体的な判断力を養う防災訓練> 安全担当を中心に訓練内容を再検討し、より現実に即したシチュエーションを設定する。児童が状況を正しく判断し、自ら動ける「主体的な避難」を目指して試行錯誤を重ねる。 <「自分事」として捉える交通安全教育> 今年度、放課後の交通事故が多発したことを重く受け止め、交通安全を他人事ではなく「自分自身の問題」として考えるための取組(危険予測トレーニング等)を検討・実施する。</p>
<p>きまりやマナーを守って生活する子の育成【人権】</p>	<p>2・3</p>	<p>・あいさつや言葉遣い、廊下歩行、名札着用の指導の徹底</p>	<p>【成果】 ・気持ちのよいあいさつができる児童が増加し、保護者や地域からも高い評価を得ている。 ・全教職員が学校のきまりを共有し、一貫した指導体制を築くことができた。 【課題】 ・単なるルールの徹底に留まらず、「なぜそのきまりがあるのか」を考え、自ら実践する態度の育成が必要である。 ・集団生活において、誰もが気持ちよく過ごすために「自分に何ができるか」を一人ひとりが自覚し、行動できる力を育むこと。</p>	<p><進んでできるあいさつ指導> 自分から積極的に挨拶を交わす姿勢が定着するよう、継続して指導・啓発を行う。 <集団生活のルール理解と主体的な取組> 約束を守る大切さを説くとともに、自らの力で学校をより良くしようとする「主体的な態度」を育成する。 <実感を伴う自己肯定感の向上> 自分たちの活動が学校の改善に繋がっていることを実感させる場を設け、自己肯定感や所属意識の向上を図る。</p>
<p>個に応じた配慮や支援・教育相談</p>	<p>1・2・3</p>	<p>誰もが居心地のよい認め合える場を基本とし、一人一人のニーズに応じた学びの場を保障する。</p>	<p>【成果】 ・全教職員が連携して児童一人ひとりの状況を丁寧に見守り、課題に対して迅速に支援を行う体制を構築できた。 ・医療機関等の外部機関と積極的に情報を共有し、専門的な知見を取り入れたことが、問題解決の有効な手立てとなった。 【課題】 ・児童の抱える課題の多様化に対応するため、個々のニーズに応じた最適な支援策を講じられるよう、教職員のさらなる研修・研究が必要である。 ・児童の思いに共感的に寄り添う「傾聴スキル」を高めるとともに、質の高い指導を継続するための教職員自身のメンタルケア体制を整える必要がある。</p>	<p><安心して学べる環境づくりと個別支援の充実> 一人ひとりが安心して参加できる学級の土台作りを進めるとともに、多様な学びの場を設ける。学カステップアップ支援員やこころスマイル支援員と連携し、よりきめ細かな個別支援を推進する。 <不登校傾向にある児童への多角的な支援> 登校に不安や困難を抱える児童が増えている実態を受け、家庭との緊密な連携やケース会議を積極的に実施する。外部機関とも手を取り合い、一人ひとりに寄り添った支援体制を強化する。 <多様な課題への早期対応と資質向上> 児童が抱える課題の多様化に対応するため、常にアンテナを高く張り、変化をいち早く察知して支援に繋げる。</p>
<p>地域と連携した教育活動</p>	<p>1・2・3</p>	<p>地域の特色を生かした総合的な学習の時間、生活科、理科、社会科、食育等地域と学校が共に協力し合いながら、地域に生きる子どもを育てる。</p>	<p>【成果】 ・地域の方々の指導による田んぼや畑での活動を通じ、児童が実感を持って学べる「本物の体験」を提供できた。 ・地域学校協働活動コーディネーターや公民館との緊密な連携により、体験を通じた思考の深まりや、多様な考え方に触れる学習が実現した。 【課題】 ・これまでの取組を今年度発足した「地域学校協働活動」の中に位置づけ、次年度以降も安定して継続・発展させていくための組織的な仕組みを構築する必要がある。</p>	<p><児童・地域の方の活躍の場づくり> 授業の充実を図るだけでなく、児童が地域で活躍し、また地域の方々も学校で輝けるような、双方向の連携を意識した場づくりを研究していく。 <地域学校協働活動を核とした教科連携の拡大> これまでの取組を地域学校協働活動の枠組みでさらに充実させるとともに、各教科の特性に応じた地域連携の可能性を広げ、学びの場の充実を目指す。</p>

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

- ・児童同士が仲良く、元気に学校生活を送っている。
- ・あいさつを大切に、思いやりの心を持った児童が見られる。
- ・親切で熱心な教職員が多く、一人ひとりの個性や成長を大切に伸ばそうとしている。
- ・体験的な学びの充実：山や川に囲まれた豊かな自然環境を活かし、畑での野菜作りや5年生の米作り(田植えから稲刈りまで)など、貴重な体験学習が行われている。
- ・算数ウィークへの協力：九九の検定など「算数ウィーク」での地域ボランティアの参画を、支援側も楽しく感じている。
- ・登校班による集団登校の仕組みが整っており、安心感がある。
- ・先生方が登校指導に立ち、児童や地域住民へ積極的に声をかけている。
- ・日常生活での事故防止や防災について、学校の指導が行き届いており、児童が自分事として考えている。
- ・児童の安心・安全に対し、地域の深い理解と協力が得られている。
- ・三位一体の教育：地域の方々の協力により、教育活動がより豊かになっており、学校と地域が良い関係を築けている。

- ・生活アンケートの結果、ゲームや動画視聴の時間が長い傾向にある。PTAや保護者と緊密に連携し、家庭でのルール作り等に取り組むことが望まれる。
- ・成長段階に応じ、自分の気持ちだけでなく相手の気持ちも大切にできるよう、道徳心や対人スキルの向上に向けた取組を期待する。
- ・友達を大切に、互いを思いやることのできる豊かな人間性を持った児童への成長を願っている。
- ・保護者が学校教育により関心を持ち、積極的に学校運営や活動に関わっていく体制がさらに整うことを期待する。
- ・学校、家庭、地域がより一層手を取り合い、相互に協力し合える風通しの良い連携体制を、今後も強化していくことを望む。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

本年度は「人権」と「安心・安全」を経営の最優先事項に掲げ、「チーム三田」として一丸となり学校づくりに邁進してまいりました。成果として、個別支援の充実や外部機関との迅速な連携体制が整い、児童の「安心」を支える基盤が強化されました。一方で、教職員一人ひとりの人権感覚をさらに研ぎ澄まし、言動一つひとつを常に見つめ直していく必要性を、組織全体で再認識いたしました。また、放課後の交通事故多発も大きな課題であり、児童の命を守るためのより実践的な指導の徹底が急務であると痛感しております。

次年度も引き続き「人権」と「安心・安全」を基本方針に据え、児童の尊厳を最優先に守る組織体制を確立します。教職員には、自らの立ち居振る舞いが児童の安心に直結することを深く自覚し、常に高い人権意識を持って寄り添う姿勢を求めてまいります。あわせて、合理的配慮の質を向上させ、誰もが心身ともに安全に学べる環境を追求いたします。

地域の皆様の多大なる支えに深く感謝申し上げます。今後も「地域の中にある学校」としての誇りを持ち、より一層信頼される三田小学校を共に創り上げていく決意です。